

第1学年技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

1 題材名 「私たちのよりよい家庭生活」（D 身近な消費生活と環境）

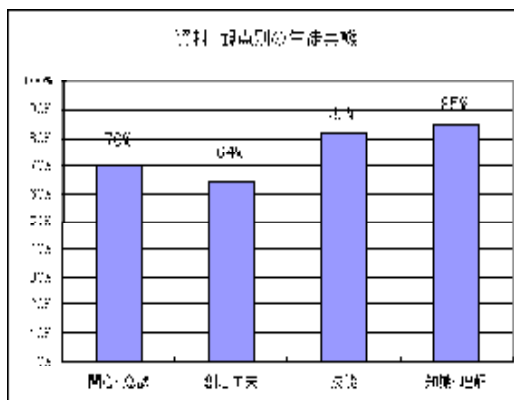
2 指導観

○ 現代の日本は大量生産・大量消費・大量廃棄の生活サイクルを確立し、豊かでモノにあふれた生活を送っている。その結果、公害問題やごみ問題など、様々な環境問題を引き起こし、生活環境に大きな影響を与えている。近年、環境に対する意識が高まりつつあるものの、1年間で排出されるゴミは膨大な量で、太宰府市では平成21年度の1年間で20,906tにも及んでいる。これは、市民一人が一日に825gのごみを出していることになる。本学級でも持ち主の出でこない落とし物が多々あったり、文房具をおもしろ半分に壊したりと、環境問題は自分と関係ないと考えている生徒も少なくないようである。この状況を考えると、中学生と言えども、自分の行動が環境問題と密接な関係があるという意識を持たせ、環境に配慮した生活を心がけさせていくことは重要であると考えられる。

よって、環境問題に関する知識を習得し、課題を見つけ、それぞれの生活スタイルにあった解決方法を考察させていきたい。そして、家庭生活の中で実践化していくことが、自分や家族のためだけでなく、環境保全のためにも重要であるという学びの価値や意義をしっかりと捉えさせることで、自ら進んで取り組む実践的な態度を育成していきたいと考える。

○ 本学級の生徒は、男子18名、女子21名の計39名で、明るく、活発な生徒が多く、発表はよくしている。右の資料は、学習プリント、授業態度や定期考査において観点別のA・Bの到達度である。4観点中、関心・意欲は70%と低く、学んだことを生活に工夫して生かしていく力も64%となっている。つまり、普段から自分の生活に関心を持ち、もっとよりよいものにしようという気持ちが不足している生徒が多いと言える。

このことから、身近な教材を活用し、課題を自分のこととして捉えさせるとともに、学んだことを積極的に実生活に生かしていく、実践的な態度を養っていく必要があると考える。



○ 本単元では、食生活や衣生活、住生活のそれぞれにおいて環境資源との関わりを理解させるとともに、自分の家庭生活の課題を見出し、実践可能で具体的な方法を示したりできるようにすることをねらいとする。

段階	指導内容
つかむ	チェックシートを使用し、自分の生活を振り返らせる。その結果から、家庭生活と環境との関わりについて気づかせ、環境保全のためにこれから何を学んでいけばよいのかなど、課題解決にむけて学習していこうとする意欲を持たせる。
考える	生徒に身近な課題として捉えさせるために、太宰府市役所の環境課の方から自分たちが住む太宰府市でどのくらいのごみが出され、どのように処理されているのかの話聞き、ごみを少なくするための生活の仕方について考えさせる。
わかめる	環境に優しい生活について、教科書などを活用して調べ、理解を深めていく。衣・食・住の面から日常の生活と環境との関わりについて調べ、それをもとに自分の課題を明確にしていく。そして、環境保全のために取り組めることはどのようなものがあるかを考え、個人で意見をまとめていく。
いかす	環境のために実践できることについて、班の中で自分たちの意見を出し合い、カードに記入させる。その後、カードを黒板に貼り、発表させる。いろいろな見方やアイディアを出し合い、環境を保持していくための生活について考え、交流活動を通して、自ら実践していこうとする態度の育成を図る。

3 単元計画と活動の場の設定・支援の工夫（5時間）

「まほろばタイム」の設定 ----- 予想される生徒の発言・反応	段階	学習活動と内容	基礎・基本とその活用の工夫 ----- 評価規準（方法）
<p>【自己決定感を高めるために】 ○ チェックシートで実生活を振り返らせる。</p> <p>「自分はこんなところがきちんとできているぞ。頑張らないといけないところはここだな」</p>	一 次 (1)	1 チェックシートで、どのくらい環境を意識した生活ができているかどうかを知る。 ・ 衣生活と環境 ・ 食生活と環境 ・ 住生活と環境	<p>【基礎・基本①】 ○ 実生活を振り返り、自分の課題を把握させる。 ・ 簡単なチェックシートを通して、自分の生活を振り返り、課題を知ることができる。 （学習プリント）</p>
<p>【自己存在感を高めるために】 ○ 家庭生活とごみ問題との関わりについて考え発表させる。</p> <p>「ごみってたくさん出ているんだな」 「自分も発表してみよう」</p>	二 次 (1)	2 市役所の環境課の方から、太宰府市のごみ問題についての話を聞き、ごみの減量に向けて、自分たちはどのようなことに取り組めばよいのかを考える。	<p>【基礎・基本②】 ○ ごみ問題を例に挙げ、自分たちの生活の仕方が環境にどのような影響を与えているのかを理解させる。 ・ ごみ問題を考えるための知識を身につけることができる。 ・ 生活の仕方とごみの排出量には深い関わりがあることがわかる。 （様相観察）</p>
<p>【自己決定感を高めるために】 ○ 環境を意識した生活にはどのようなものがあるのかを調べさせる。</p> <p>「いろいろあるんだな」 「これなら自分にもできそうだ」</p>	三 次 (2)	3 2の項目を含め、自分にできる環境を考えた暮らし方について、教科書を活用して調べる。 ・ エコバックの活用 ・ 節水、節電 ・ エコクッキング ・ 地産地消 ・ 再利用 ・ 洗剤の量 ・ 自然エネルギー ・ 後かたづけ ・ マーク	<p>【基礎・基本③】 ○ 環境に配慮した暮らし方について調べさせる。 ・ 教科書を活用して主体的に調べ、学習プリントにまとめることができる。 （様相観察）（学習プリント）</p>
<p>【共感的人間関係・自己存在感を高めるために】 ○ 班で意見をまとめ、学級全体で交流活動をさせる。</p> <p>「自分の考えをきちんと言えたぞ」 「○○の意見はいいなあ」 「自分もやってみようかな」</p>	四 次 (1)	4 調べた内容をもとに、自分たちにできる環境に配慮した暮らし方について、班で意見を出し合う。その後、学級で意見交流する。 ・ 調べ学習の発表 ・ 意見交流 5 周りの意見も参考にして、今後、自分が家庭生活で取り組んでいこうと思うことを学習プリントに記入する。	<p>【創意工夫する力（思考力）を身につけさせるために】 ○ 調べ学習や交流活動を通して学習したことを実生活に生かしていこうとする態度を養う。 ・ 自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。 ・ 環境を守るために自分にできることを考え、実践しようとする意欲を持つことができる。 （カード）（学習プリント）</p>

4 本時の指導計画

(1) 主眼

- 環境について調べたり、考えたりしたことを班でまとめ、意見交流することができる。
- 環境を守るために自分にできることを考え、実践しようとする意欲をもつことができる。

(2) 授業仮説

「考える」段階と「分かる」段階で、次のような場の設定と工夫を行えば、生徒の学習意欲が高まり、自分の家庭生活を見直し、「創意工夫する力(思考力)」を身につけるであろう。

- 調べ学習の結果を班や学級内で発表させ、意見を交流させる。【共感的人間関係】
- 発表を通して学習したことを、自分の生活にどのように生かしていくのかを自己決定させる。

【創意工夫する力(思考力)】

(3) 準備

学習プリント カード マグネット 模造紙

(4) 指導過程

段階	学習活動・内容	指導上の留意点	期待する生徒の姿 評価規準〈方法〉	配時
つかむ	1 前時までの学習を振り返り、めあてをつかむ。			5
	めあて 環境に配慮した暮らし方について自分に何ができるのかを考え、実践できるようになる。			
考える ／ わかる	2 環境を守るために、日常生活の中で自分にどのようなことができそうかを班で話し合い、カードに記入する。	まほろばタイム 自分の考えを発表したり、聞いたりすることで、互いの考えを受け止め合う活動の場を設定する【共感的人間関係】 ・ 発表を聞いてよかったと思うところや疑問点などを互いに意見交流させる。 ・ 衣、食、住の分野に分けてカードを貼らせる。	期待する生徒の姿 ・ 自分の考えを班や学級の中で伝えることができる。また、他の生徒の発表の中にも、家庭生活と環境問題の関連性を見つけることができる。 (様相観察)(カード)	15
	3 班で記入したカードを黒板に貼り、学級内で意見交流をする。 ・ エコバックの活用 ・ 衣服の再利用 ・ 洗濯時の洗剤の量 ・ 食材の使い切り ・ 生ゴミの減量 ・ 地産地消 ・ 節電、節水 ・ 室内温度の調節			10
いかす	4 感想を学習プリントに記入し、発表させる。	「創意工夫する力(思考力)」を身につけさせる工夫 ・ 環境に配慮した暮らし方をするために、今後自分自身がどのように取り組んでいくのかを考えさせる。 ・ 発表の内容や感想を教師で整理するとともに、教科書を読んでまとめにつなぐ。	評価規準〈方法〉 ・ 自分の家庭生活を念頭に置き、学習したことどのように実生活に取り入れていくのかを考え、学習プリントに記入することができる。 (学習プリント)	15
	5 教師のまとめを聞く。			5
まとめ 自分の暮らし方を見直し、環境保全のために自分にできることを、積極的に取り組んでいくことが大切である。				